



TITLE:

和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所"北浜"へ打ち上げられたタカラガイ類とイモガイ類（腹足綱, 前鰓亜綱）の追加種

AUTHOR(S):

久保田, 信

CITATION:

久保田, 信. 和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所"北浜"へ打ち上げられたタカラガイ類とイモガイ類（腹足綱, 前鰓亜綱）の追加種. 南紀生物 2017, 59(2): 188-189

ISSUE DATE:

2017-12-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/228941>

RIGHT:

© 南紀生物同好会

南紀生物, 59(2): 188 – 189, 2017

和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”へ 打ち上げられたタカラガイ類とイモガイ類（腹足綱, 前鰓亜綱）の追加種

久保田 信*

Shin KUBOTA: Additional species of a cowry and cone shells (Gastropoda, Prosobranchia) washed up on a “Kitahama” beach of the Seto Marine Biological Laboratory, Kyoto University in Shirahama Town, Wakayama Prefecture, Japan

はじめに

和歌山県に所在する白浜半島の先端部の番所崎とその付け根に当たる京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”および“南浜”は外洋に面し、黒潮の影響を受ける磯と浜が交互に並ぶ海岸で、複雑な環境に応じ多種多様の軟体動物が生息する（久保田, 2006; OGAKI *et al.*, 2011）。それらの多くは死亡後にその付近の海岸に漂着するが、過去20年余りの期間中、当該区域に打ち上げられた貝殻について、毎日のように継続調査を実施中である。この最初の報告は、2002年2月以前の5年間に実施された結果をまとめたもので、腹足綱は3亜綱12目61科188属343種34亜種3型を記録した（久保田・小山, 2002a, b）。その後、久保田（2006）や平澤・久保田（2013）により追加種を記録し、腹足綱は3亜綱12目62科192属366種41亜種3型となった。これらの内の最新の報告中の5種のイモガイ類は分布の北限を更新した種であるが（平澤・久保田, 2013）、1985–2010年の25年間に実施された番所崎の定点における定量調査（OGAKI *et al.*, 2011）ではこれらの生体は確認されていない（久保田, 2017b）。

今回、2017年8月初旬に、北浜でタカラガイ類とイモガイ類でそれぞれ稀少な1種ずつの追加が確認されたので報告する。

結果と考察

北浜で日々実施中の打ち上げ調査中、8月初旬に紀伊半島に上陸した台風5号の影響で、以下の2種の稀少種が採取された。

ハチジョウダカラ *Mauritia mauritina* (LINNAEUS, 1758)
(図1)

2017年8月5日、殻長70mmの亜成体の死貝殻が打ち上がっていた。その表面は漆塗り様の光沢が少し残存していたが、波浪にもまれて貝殻の一部が破損していた。軟体部は一切残っておらず、貝殻の内側には多数の



図1 和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”へ2017年8月に初めて打ち上げられたハチジョウダカラ（亜成体）

* 〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町459 京都大学フィールド科学教育研究センター 瀬戸臨海実験所
Seto Marine Biological Laboratory, Field Science Education and Research Center, Kyoto University, Shirahama 459, Nishimuro,
Wakayama 649-2211, Japan e-mail: kubota.shin.5e@kyoto-u.ac.jp

ウズマキゴカイやその他の環形動物の棲管が付着しており、コケムシ類の群体も複数見られた。これまで本種は番所崎周辺区域ではただ1個体の亜成体の生体が、2002年12月に記録されているのみであった（新稲・久保田，2009）。なお、白浜町の他の2箇所（鴨居と対之浦）でも成体も含めて少数が記録されている（新稲・久保田，2009；久保田，2017a）。

コモンイモ *Conus (Puncticulatus) arenatus* HWASS in BRUGUIÈRE, 1792 (図2)

2017年8月5日、殻長26mmの死貝殻が、洞門の東側にある岩の隅に集積された貝殻の中に埋もれていた。本種独特の模様はかなり磨り減っていた。



図2 和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”へ2017年8月に初めて打ち上げられたコモンイモ

今回の追加により、北浜へはタカラガイ類は36種、イモガイ類は24種の打ち上げ記録となった。イモガイ類はタカラガイ類と並び南方系要素を示す代表的な動物分類群の一つで、日本沿岸では約160種が記録されているが（奥谷，2017）、黒潮と対馬暖流の影響を受け、南方により多くの種が分布する（久保田，2012）。本州最南端

地点を含む和歌山県沿岸が分布の北限になる種（奥谷，2017参照）は、イモガイ類では上記の北浜への打上24種中14種で、58%も占めている。今後の地球温暖化の進行により、この率の増加が予想される。一方、タカラガイ類の北浜での打ち上げ記録種は全て房総・三浦半島以南の分布を示し、紀伊半島が北限となっている種は見当たらないものの、将来、本地点で北限種が発見されるかもしれない。

引用文献

- 平澤康太・久保田 信. 2013: 和歌山県白浜町番所崎付近へ打ち上げられた軟体動物腹足綱貝殻追加目録 (2011–2013). 南紀生物, **55**, 90–91.
- 久保田 信. 2006: 宝の海から。白浜で出会った生き物たち. 233 pp. 紀伊民報, 田辺市.
- ・小山 安生. 2002a: 番所崎, 特に“北浜” (和歌山県白浜町) へ打ち上げられた軟体動物貝類目録 (1). 南紀生物, **44**, 69–76.
- ・———. 2002b: 番所崎, 特に“北浜” (和歌山県白浜町) へ打ち上げられた軟体動物貝類目録 (2). 南紀生物, **44**, 133–139.
- . 2012: 長崎県対馬に漂着したタカラガイ類とイモガイ類 (巻貝綱). 長崎県生物学会誌, (70), 6–8.
- . 2017a: 和歌山県白浜町の海岸でハチジョウダカラ (腹足綱, タカラガイ科) の打ち上げ. 本覺寺杉貝, (81), 19–22.
- . 2017b: 和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”へ打ち上げられたイモガイ類 (腹足綱, 前鰓亜綱, 新腹足目) の貝殻目録. 漂着物学会会報, (57), 3–4.
- 新稲一仁・久保田 信. 2009: 和歌山県白浜町へのハチジョウダカラ *Cypraea (Mauritia) mauritiana* (腹足綱, タカラガイ科) の出現. 南紀生物, **51**, 144–145.
- OHAGAKI, S., K. KOMEMOTO & N. FUNAYAMA. 2011: Record of the intertidal malacofauna of cape Bansho, Wakayama, Japan, from 1985 to 2010. Publ. Seto Mar. Biol. Lab., Special Pub. Ser., XI, 1–311.
- 奥谷 喬編著. 2017: 日本近海産貝類図鑑 (第二版). 1375pp. 東海大学出版部, 神奈川.